

令和3年度 中央区立月島第一小学校	外部評価報告書
外部評価委員：高木 悦子 山口 啓朗 増田 光辰 木皿儀孝子 黒川 悦子 長島 広隆 (敬称略) 報告書作成者：峯川一義	
評価時期 令和4年3月	
<p>1 重点目標の評価</p> <p>重点目標1「基礎的・基本的な学習内容の理解と学びに向かう力の育成」</p> <p>○「基礎的・基本的な学習内容が理解できている」については、「十分そう思う・そう思う」が教員は100%、保護者は90%である。児童アンケートの「授業の内容はよくわかるか」も90%である。重点目標1は概ね達成されていると考える。しかし、「補充学習で学習のつまずきが解消されている」に対して約8%の保護者が「あまりそう思わない」としている。「授業の内容はよくわかるか」に「あまり当てはまらない」と回答した約10%児童の学びに対する支援の方法を検討することが必要である。</p> <p>○「学習習慣が身に付き、自ら進んで課題に取り組んでいる」については、「十分そう思う・そう思う」が教員は100%、保護者は80%弱である。児童アンケートの「学校から帰って学年×10分以上の学習をしている」については、約30%が否定的な回答をしている。教員は、児童一人一人の学習の状況を的確に捉え、個別に適切な指導を行う必要がある。</p> <p>重点目標2「規範意識・他者への思いやりの心の醸成といじめの根絶」</p> <p>○「ルールを守り、時と場合に応じた言葉遣いやあいさつ」については、教員は100%、保護者は90%弱が「十分そう思う・そう思う」と回答している。児童アンケートの「友達や先生に元気よくあいさつをしているか」は80%超、「学校の約束は守っている」は90%弱、「みんなで使うものは大切に」は97%である。児童は規範意識が身に付いているという意識は高く、言葉遣いやあいさつなどの基本的な生活習慣は一部の児童が課題としていると考えられる。</p> <p>○「自分の長所に気付き、自信をもって」については、教員は90%超、保護者は80%超が「十分そう思う・そう思う」と回答している。これに対応する児童アンケートの項目が見当たらないが、自尊感情や自己肯定感を培う教育活動の一層の充実を期待したい。</p> <p>○「互いの思いや考え・立場を認め」については、教員は100%、保護者は90%が「十分そう思う・そう思う」と回答している。児童アンケートの「困っている友達を見かけたら、助けたか」が89%で保護者と同様の傾向である。一方、「学校に行くのが楽しいか」は「あまりそう思わない・思わない」が16%おり、「学校の先生たちに分からないことを聞きやすいか」は、約1/4の児童が「あまりそう思わない・思わない」としている。いじめの根絶に関わる質問であると考えられるので、問題点を明らかにし指導体制の見直しを図り児童の心の問題の早期発見、早期対応に努めていただきたい。</p> <p>重点目標3「健康な生活習慣の確立と体力の向上」</p> <p>○重点項目3の教員への質問は語尾が「…させましたか」となっており、「十分そう思う・そう思う」が3項目すべてで100%である。一方、保護者は1/3から1/4が「あまりそう思わない・思わない」である。教員側はプロセスの評価であり保護者側は結果（現状）の評価になっていると考えられる。児童アンケートの「健康に気を付けて、運動や正しい食生活をしたか」については85%、「自分の体力づくりに取り組んでいるか」は80%であり、保護者が感じている実態よりは児童は高い意識をもって取り組んでいる。健康や体力に対する児童の意欲に応え、体育をはじめとする運動に関する様々な教育活動の改善を図るとともに、家庭とも協力し来年度の体力調査に向けた具体的な目標を設定し実践することが大切である。</p> <p>2 今後の改善に向けた意見</p> <p>○学校評価は、教員による自己評価を基本として、保護者や児童による評価や評議員・外部評価委員の評価を参考にしつつ、当該年度の教育活動の課題を明らかにし、自校の教育の改善・充実を図るために行うものである。教員、保護者、生徒の三者に対する質問に整合性をもたせ、意図を明確にして文言を整理することが必要である。</p> <p>3 その他</p> <p>○コロナ禍の中、学校の「可能な限りやり遂げた」という思いが伝わってくる内容であった。収束後を想定した指導の在り方を十分に検討し、新しい時代に適応した学校を創っていただきたい。</p>	

